



“農・障・高連携” 日本の原風景が残る
中山間地で、課題を資源に変える！
訪れる人にとって宝物として
感じられるような環境を作りだすのが、
あなたのプロジェクトです。



活動地域はこんなところ

長岡市街から栃尾方面へ車で15分ほど、少し長めのトンネルを抜け、「一之貝」の立て看板を目印に少し山を登った所にあります。そこは、思わず息をのむような美しい棚田の風景が広がり、豊かな緑ときれいな水、山の中腹の傾斜地ならではの美しい景観に恵まれた、米・野菜・山菜・そして“どぶろく”の美味しい所です。

長岡市荷頃地区は、現在、470世帯、人口1,250人。2004年の中越大地震や豪雨等、自然災害も重なり、人口の減少、空き家の増加、生活の中心である農業の担い手不足と耕作放棄地の増大という状況が加速し、高齢化率は43%で、いわゆる「限界集落」の一步手前といっても過言ではない状況です。また、3m近い雪が

積もることもある新潟でも有数の豪雪地帯であり、雪下ろしなどの雪対策も課題になっています。

NPO法人UNE(ウネ)は、この一之貝に地域活動支援センターUNEHAUS(ウネハウス)を2011年にオープンさせました。UNEは「障害者も高齢者も、そして健常者も若者も、全ての人が人間らしく、誇りを持って一生安心して暮らせる“ユニバーサル社会”」の構築を理念に掲げ、豊かな自然の下で皆が一緒になって取り組む「農園芸作業」を通じて、「労働の喜び」と「生き甲斐」を、そこに暮らす全ての人が感じながら生活していける、持続可能な社会のモデルをつくっていくことを目指しています。



栃尾地域のゆるキャラ
“あぶらげんしん”

